

## 令和2年11月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和2年11月20日（金）13時～13時35分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>朝日新聞、山形新聞、米澤新聞、読売新聞、置賜日報、NHK、YTS

<市> 市長、秘書広報課長、担当者

4 記者倶楽部からの質問事項

(1) 知事選の告示まで2ヶ月を切りました。現時点では現職と新人の2人の争いが見込まれますが、市長はどちらを支援しますか。

(2) その他

5 内 容

○秘書広報課長

これより令和2年度11月の定例記者会見を開催させていただきます。初めに、市長から発言がございます。

○市長

はい。今月の定例記者会見に関するご質問は「知事選の告示まで2ヶ月を切りました。現時点では現職と新人の2人の争いが見込まれますが、市長はどちらを支援しますか。」という内容であります。結論から申しますと、今現在どちらを応援する、中立で臨むということについて、まだ明確にできていないという部分がございます。と申しますのも、首長としまして、これからの県政のあるべき姿、また、米沢、そして置賜3市5町で構成する、置賜総合開発協議会の会長もしておりますので、毎年県に要望事項を出しております。そうしますと、まだ大きな目標が伝わり聞こえてきている部分もありますが、今申し上げましたように米沢の政策課題、県政における政策課題、あるいは置賜全体における政策課題に対する県の方針というもの、つまりローカルマニフェストがまだ明確になっていないというのが状況でございます。やはり首長としましては今後どのようにこの米沢、置賜を県政運営の中で推進をしていくのかということのローカルマニフェストを見て比較しまして、その中で態度を決めさせていただきたいと考えております。

○秘書広報課長

市長からの発言は以上となります。これ以降の進行につきましては幹事社にお渡しをしますので、よろしくお願いいたします。

○幹事社

皆さんから質問はありますか。

○記者

ローカルマニフェストを比較した上でということでしたが、一方の自民党候補の方は発表されています。自民党候補のマニフェストを見て、共感できる点、出来ない点ありましたか。

○市長

ローカルマニフェストはまだ見ておりません。パンフレットの的なものは拝見しておりますが、それをしっかりと、今度は現職のものも出てくると思うのです。それを見て判断をしたいと思います。

○記者

既に出ているのはパンフレットの的なものだけなので、もう少し深掘りしたのものも見たいということですか。

○市長

はい。

○記者

地域別の、置賜地域の公約は発表されていますよね。

○市長

それをまだ見ていないものだから判断できないと申し上げております。

○記者

判断する際に特にどういった点に注目したいと思っておられますか。

○市長

長年米沢市として県に重要事業として挙げてきたものもございますので、例えば私も県議時代に常に県政の中で話してきたのが、これは米沢市だけでなく、米沢商工会議所も一体となって、山形県工業技術センター置賜試験場をオフィシャルカディアに移設を、ということは県に長年要望してまいりました。私も県議時代にこのことを常に話してきましたが、まだ実現に至っていない。その他にも重要課題はたくさんある訳でありますので、そういったものが今後県政の中でどのように取り組んでいただけるのかと、そういったものがおふたりのマニフェストの中に記載されているのか、そういったものを見ながら判断をしたいということでもあります。

○記者

オフィシャルカディアに設置することによってどういう効果を期待されていますか。

○市長

米沢市はご承知のとおり、製造業、ものづくりのまちですし、大学も工学部もあるわけですね。当然、産学官連携とってこれから付加価値の高いものづくりをしていくためには、この時代に合ったような工業技術センター置賜試験場であるべきだということは前々から申し上げております。そして、窪田にあります試験場も老朽化してきておりますので、1日も早く建て替えをしてほしいと。そのためにオフィシャルカディアには、その用地も現在とってありますので、常に県には、もしそういったことが可能でなければ、用地も大分分譲が進んでおりますので、そういった判断をしなければならぬということとは常に申し上げてきたところであります。

○記者

分かりました。不勉強でしたが、窪田にあるものを、オフィシャルカディアに確保してある市有地のほうに移転してほしいということを経年訴えておられて、それについての両候補の基本的な立場をきちんと踏まえたうえで判断したいということですね。

○市長

そうですね。それだけではなくて、もっとその他に色々な課題がありますので、そういったものを候補者がどうやって実現をしていただけるか、そういう事になるかなと思っております。

○幹事社

県では、在宅勤務、テレワークを進めているようですが、それを米沢市で進めるようなお考えはありますか。

○市長

それは内部で検討をしております。

○幹事社

結論はいつごろまで出されるおつもりですか。

○市長

結論をいつまで出すという段階ではないのですが、当然テレワーク、職員の在宅勤務ということにおいても、今回の色々なコロナの問題で課題になりましたので、どのようにしたらできるかということについて、総務部の中で検討しているという状況です。ただ、どうしたらできるかというのはなかなか行政としても全く初めて取り組むことでありますので、全体のデジタル化もどう進めていくかということも大きな課題になってきておりますので、そういった関連性を持ちながら今、検討しているというのが実情です。

○幹事社

ありがとうございます。他にありますか。

○記者

選挙の関係とはまた別件ですが、前に少し話題になっていた飛び込みプールは今どうなっていますか。

○市長

あれは一定程度の方向性を示したと、公共施設等総合管理計画の中で20%削減という方針もありましたので、そういった中で何が可能なのかということも公共施設等総合管理計画の中で出したということで、まだ明確に「廃止をする」と、そう決めたものではないと。ただそういったことが報道をされまして、やはり県内で唯一の施設でありますので、米沢市以外の方々からも、「なんとか残してもらいたい事はあるか」と、「クラウドファンディングでもなんでも活用して資金を集めて」というような市長への手紙もありました。それで、やはりこの問題については、市単独でということよりも県内唯一の施設であるということで、県会議員の皆さんも心配していただいております、県と連携をとれないかとかそういったところを今ご検討いただいていると。まだ結論には達していない訳で、そういった内容で今のところは存続する場合にはそういったことも含めて今検討をいただいているという部分もあります。ただ、県の方でどういうふうに答えを出していただくかは分かりません。

○記者

今のところは残すとも無くすとも決定はしていないということですか。

○市長

いずれにしても、例えば廃止をするということになれば、まず関係団体、色々な方々と「残す」「残さない」は別にしましても丁寧に話し合いを進めていかなければならないと思っておりますので、そういったものを大事にしながら今後どのように答えを出していくかということにさせていただきたいと思えます。

○記者

別件でというか、先日もコロナの本部で3日後に迫った成人式についても注意喚起などありましたが、また今日も県内で新たな発生が発表されているように、非常に緊迫している状況にあります。市長として改めて今の県内におけるコロナの感染状況どう考えているのかも含めて、成人式に出席するであろう新成人に向けてメッセージがありましたらお願いします。

○市長

はい。日本全体で、第1波、第2波より大きな波の感染状況になっているのではないかと判断しております。そうしてみますと、人の移動にしましても、第1波、第2波の時よりも色々な事業で拡大をしておりますので、いつどのようにこの米沢にも入ってくるか分からない。そういった場合に、やはり何よりも感染防止、新しい生活様式、しっかりとしたそういう対応をとっていただきたいと。しばらく対策本部も開かないことができましたので、そういった意味でもう一度気の緩みの無いようにという意味合いもあって、この間対策本部を開催させていただきました。そして何よりも、成人式、延ばし延ばしにしてきまして、11月の23日に、まずやるという最終決断をしたわけでありました。その中には当然、感染拡大地域にお勤めであったり、また学生であったりという方もそれは当然参加されるケースもありますので、そこはお知らせする段階で、しっかりとコロナ感染対策を十分に取って、「こういった方式でやりま

すよ」ということもお願いをしながら、成人式を開催しますからご参加くださいという案内をさせていただいております。新成人の皆様にはやはり、20歳になったというひとつのけじめの日本の伝統、歴史的な行事でありますので、そこはやはり今までどおり、年を越すことなく何とか開催したい。ただ開催はしますが、しっかりと我々もそうではありますが、20歳の皆さんの感染防止を徹底的に呼びかけながら、対応させていくというような内容で今取り組んでいるというのが現状であります。

○記者

もう1点、その関連ではありますが、これからまた忘年会とかそういう季節に入っていきますが、春先は皆さん外で会食しましょうというようなことを市長が積極的におっしゃっておられましたが、この冬の時期を迎えて今どんなことをお考えになっていますか。

○市長

やはり国の方針というのも出ているようでありますので、感染対策をしっかりと、そして毎度申し上げているのですが、そういった利用するお店、また利用する側も、しっかりと感染対策をとっていきましょうということでこのびしゃもんプロジェクトもやっている訳ですので、そういったこともしっかりと守りながら、そして極力密にならないような状況の中で、やっていただけるのであれば、私はそれでいいのではないかなと思っています。

○記者

最後になりますが、各地で年明け新春の行事について、早いところでは中止を決める流れができつつありますが、米沢の場合2月になりますが上杉雪灯籠まつり、どんなタイミングでどういう決断をするスケジュール感をお持ちですか。

○市長

これも今事務局サイドで詰めて、どうするかというような内容も含めて今検討しているようです。ただ、その時の状況も判断しなければなりませんので、今現在においてやるとかやらないとかというところの判断はしておりません。あくまでも、できればやはりやれる方向で、規模縮小とかそういうところが可能か可能でないかということの中で、今後判断をしていかなければならないものと思っております。

○記者

ホストタウンの関係の話なのですが、なかなか相手側との連絡が難しいということで、この間も議会の報告ありましたが、市長としての想いをお聞かせください。

○市長

ホストタウンにつきましては、はっきり申し上げまして相手地域においては色々政治的な状況であったりとかコロナの感染ということなどもあったりしまして、ずっと交流できないできました。そして来年のバウヒニアワールドカップ、この件もお互い連絡を取り合いながら、オンラインで向こうのヤン会長とお話をさせていただいたこともあったのですが、今はとにかくコロナの終息を待ちながら対応したいというお互いのそういう方向だったものでしたから、今回の補正予算では減額したわけでありま

す。ただもう一方で、ホストタウンの大きな目的の中で相手国の競技関係を受け入れるというのがあるのですが、経済関係の交流もありますので、そういった部分については、米沢に今後教育旅行とかそういったことなども相手側と話してきた経過もありますので、ただ今はやはり無理だという判断もありまして、そういったものは大事にしながら、オリンピックが終わった後にもホストタウンとしての交流なども考えていかなければならないと思っております。そこは相手側としっかり連絡を取っているというのが現状です。

○記者

しっかりと責任のある立場の方とのつながりは維持できているのですか。

○市長

はい。できています。

○秘書広報課長

それではこれもちまして、令和2年11月の定例記者会見を終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。

○市長

ありがとうございました。